

会 見 年 月 日	令和3年11月17日(水)
担 当 課	市長公室企画政策課
問い合わせ先	電話：0791-43-6867 (内線：2458、2453) FAX：0791-43-6822 (担当者名：玉木、庵原)

ル・ポン国際音楽祭2021 赤穂・姫路 ベルリン特別公演

オンラインコンサートの開催について

ル・ポン国際音楽祭2021 赤穂・姫路 ベルリン特別公演 オンラインコンサートを開催し、下記公式ホームページでライブ配信を行います。

記

- 1 日 時 令和3年12月13日(月) 日本時間 午後8時から
(ベルリン時間 正午)
- 2 演奏場所 フィルハーモニー・ベルリン 大ホール
- 3 出演者 樫本 大進音楽監督 外11名
- 4 配信HP ル・ポン国際音楽祭公式ホームページ
(<https://www.imf-le-pont.jp/>)
- 5 視聴方法 上記の公式ホームページへのアクセスにより無料で視聴することができます。

なお、上記のライブ配信を見逃された場合は、令和3年12月14日(火)から令和4年1月12日(水)まで(予定)の間、録画配信により視聴することができます。

※別添のチラシは、一部変更・修正する場合があります。

Le Pont International Music Festival 2021 Ako & Himeji

ル・ポン国際音楽祭2021赤穂・姫路 ベルリン特別公演 オンラインコンサート

令和3年 (2021年) **12月13日(月)** 午後8時から午後10時
ライブ配信(予定)

フィルハーモニー・ベルリン 大ホールよりライブ配信

出演者



©Kenta Osada (Ossa Mondo A&D)
音楽監督/榎本 大進(Vn)



五明 カレン(Vn)



ファ・ベンディックス=バルグリー(Vn)



©Pivax Studio
ギャレス・ルベ(Va)



©Edith Field
アミハイ・グロス(Va)



©Neda Navaee
クラウディオ・ボルケス(Vc)



©Marco Borggreve
ユリアン・シュテッケル(Vc)



©Emile Holba
マシュー・マグダルド(Cb)



©Gietler Blum
ヴェンツェル・フックス(Cl)



©Denis Felix
エマニュエル・パユ(Fl)



©Monika Rittershaus
シュテファン・ドール(Hr)



エリック・ル・サーージュ(Pf)

視聴方法

ル・ポン国際音楽祭公式ホームページにて **無料** でご視聴いただけます。

見逃し配信につきましては、下記の公式ホームページにおいて、
12月14日(火)から令和4年1月12日(水)まで予定しています。

<https://www.imf-le-pont.jp/>



主催：赤穂国際音楽祭実行委員会／姫路国際音楽祭実行委員会

共催：赤穂市／姫路市／赤穂市教育委員会／姫路市教育委員会／公益財団法人赤穂市文化とみどり財団
公益財団法人姫路市文化国際交流財団

協力：ベルリン・フィルハーモニー財団／株式会社ジャパン・アーツ

お問い合わせ

ル・ポン2021事務局

TEL:0791-43-6867(赤穂市企画政策課)
TEL:079-221-2098(姫路市文化国際課)

HP <https://www.imf-le-pont.jp/>

榎本大進音楽監督からのメッセージ



昨年2020年のル・ポン国際音楽祭を中止しなければならなかったことは、私にとって非常に辛く残念な経験でした。今年2021年も入国規制により、播磨地方に美しい室内楽をお届けすることが再び叶わないという事実は、受け入れ難いものでした。しかし、残念なことに、日本への入国規制は依然として厳しく、

私たち音楽家が日本に入国する際にも多くの支障があるため、今年も例年通りのル・ポンを実施することができませんでした。ただありがたいことに、今年ル・ポンに参加を予定していた、また過去に参加したことのある音楽家の多くが、忙しいスケジュールの合間を縫って、ベルリンのフィルハーモニーから生中継される特別なオンラインコンサートに参加してくれることになりました。音楽家の友人たちが、このようにこの音楽祭に愛情を注いでくれていることは、私にとって宝物のようなもので、とても感謝しています。

もちろん、私の目標は、音楽祭の故郷である赤穂、

姫路に戻り、特別に準備された会場でコンサートを行い、聴衆、演奏家、ボランティア、その他全ての関係者とともに、美しい音楽、エキサイティングな時間、そして独特の心温まる雰囲気とを共有することです。私たち音楽家には、お互いの関係や音楽だけでなく、生のコンサートでしか得られない聴衆との交流や感動が必要なのです。これが私たちの生命線です。ここに向かって舵を切る必要があるのです。

今回は、デジタルでのお届けに限らせていただきますが、私たち演奏家は、美しい赤穂城跡や姫路城の豪華な庭園、印象的な書写山圓教寺などで、お客様を目の前にして演奏しているような気持ちで臨みます。また、素晴らしいホールのベルリン・フィルハーモニーも、このイベントに特別な雰囲気をもたらし、新たなインスピレーションが得られるのではないのでしょうか。

来年2022年には、赤穂、姫路で開催されるル・ポン国際音楽祭で再びお会いできることを楽しみにしています！

榎本 大進

ル・ポン国際音楽祭 赤穂・姫路 音楽監督
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
第1コンサートマスター

プログラム

W. A. モーツァルト：ホルン五重奏曲 変ホ長調 KV407 (約18分)

ドール、ベンディックス＝バルグリー、ルベ、グロス、ボルケス

ミヒャエル・ハイドン：ディヴェルティメント ハ長調 MH27 (約15分)

五明、シュテッケル、マクドナルド

ハインリヒ・ホフマン：フルートと弦のためのセレナード Op.65 (約21分)

パユ、五明、榎本、グロス、ボルケス、マクドナルド

＊————— 休 憩 (約10分) —————＊

カミーユ・サン＝サーンス：タランテラ Op.6 (約7分)

ル・サーージュ、パユ、フックス

ニーノ・ロータ：フルート、ヴァイオリン、ピアノのための三重奏曲 (約14分)

パユ、榎本、ル・サーージュ

エルネー・ドホナーニ：六重奏曲 ハ長調 Op.37 (約30分)

ル・サーージュ、ドール、フックス、ベンディックス＝バルグリー、ルベ、シュテッケル

やむを得ない事情により、出演者・曲目等が変更になる場合があります。

ル・ポン(Le Pont)とは

「ル・ポン(le pont)」とは、フランス語で「架け橋」を意味し、赤穂国際音楽祭及び姫路国際音楽祭の愛称として親しまれています。音楽監督・榎本大進氏の「音楽を架け橋に、人と人とのきずなを大切に、平和で幸せな世界を作りたい」という思いを受け、「一流の演奏家による室内楽を市民が気軽に楽しめ、奏者と聴衆の距離の近い音楽祭」を目指して、2007年から開催してい

ます。また、音楽監督の呼びかけにより、音楽祭の趣旨に賛同する世界的演奏家がボランティアで出演しています。今回のベルリン特別公演についても、全員がこの音楽祭に参加した経験があり、コロナ禍の厳しい状況であってもル・ポンの思いを日本に届けたいとして実現したものです。

ル・ポン国際音楽祭2021 赤穂・姫路 ベルリン特別公演 オンラインコンサート

2021.12.13ライブ配信

赤穂国際音楽祭 事業計画書

● 目的

- ① 赤穂においてクラシック音楽を市民が、特に将来を担う子どもたちが気軽に楽しめる環境をつくりだすこと。
- ② 豊かな自然環境や歴史・文化に恵まれたまち「赤穂＝AKO」の名前を改めて全国へ、そして世界に向けて発信し、観光振興、定住促進等に寄与すること。

● 経緯

赤穂市に縁がある世界的ヴァイオリン奏者榎本大進氏から、世界の実力派演奏家を「ふるさと赤穂」に招き、ヨーロッパで開かれているような市民手づくりの音楽祭を定期的で開催できないかとの提案を受け、2007年から同氏を音楽監督に迎え、同氏と親交のあるヨーロッパを中心に活躍中の演奏家を招いて国際音楽祭を開催している。

2012年から姫路国際音楽祭と共同開催。

2020年と2021年については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、演奏家が来日して行う音楽祭は中止としたが、榎本大進音楽監督の「コロナ禍にあっても、一人でも多くの方々に音楽を届けたい」との思いを受け、2021年においては、ベルリン特別公演オンラインコンサートを開催し、ホームページにおいてライブ配信を行う。

● 名称

ル・ポン国際音楽祭 2021 赤穂・姫路

【英文表記】 Le Pont International Music Festival 2021 Ako & Himeji

Le Pont(ル・ポン)とは、フランス語で「架け橋」を意味する。この音楽祭が音楽と平和、現在と未来、赤穂・姫路と近隣自治体、東日本や熊本など、被災地から世界にまで広がる「架け橋」となるようにとの願いを込めて。

● 開催日

2021年（令和3年）12月13日（月）日本時間午後8時（ドイツ時間正午）からフィルハーモニー・ベルリン大ホールよりライブ配信

見逃し配信については、12月14（火）から令和4年1月12日（水）まで予定しています。

● 主催等

音楽監督 榎本大進

主 催 赤穂国際音楽祭実行委員会、姫路国際音楽祭実行委員会

共 催 赤穂市、赤穂市教育委員会、公益財団法人赤穂市文化とみどり財団
姫路市、姫路市教育委員会、公益財団法人姫路市文化国際交流財団

協 力 ベルリン・フィルハーモニー財団、株式会社ジャパン・アーツ

● 出演者

榎本大進氏のほか、音楽監督の同氏が指名・交渉し、音楽祭の趣旨に賛同する演奏家12名が参加する予定。

ヴァイオリン	榎本 大進	日本
	五明 カレン	アメリカ
	ノア・ベンディックス＝バルグリー	アメリカ
ヴィオラ	ギャレス・ルベ	南アフリカ
	アミハイ・グロス	イスラエル
チェロ	クラウディオ・ボルケス	ドイツ
	ユリアン・シュテッケル	ドイツ
コントラバス	マシュー・マクドナルド	オーストラリア
クラリネット	ヴェンツェル・フックス	オーストリア
フルート	エマニュエル・パユ	スイス
ホルン	シュテファン・ドール	ドイツ
ピアノ	エリック・ル・サーージュ	フランス

※やむを得ない事情により、出演者が変更する場合があります。

● 基本方針

- (1) 榎本大進氏を音楽監督とし、同氏と親交のある世界で活躍中のアーティストによる室内楽の楽曲（ソロ又は数人程度のアンサンブルによって演奏される曲）の演奏を中心としたプログラムとする。
- (2) 姫路国際音楽祭との共同開催とし、ライブ配信映像の視聴については無料とする。

榎本大進音楽監督からのメッセージ

昨年 2020 年のル・ポン国際音楽祭を中止しなければならなかったことは、私にとって非常に辛く残念な経験でした。今年 2021 年も入国規制により、播磨地方に美しい室内楽をお届けすることが再び叶わないという事実は、受け入れ難いものでした。しかし、残念なことに、日本への入国規制は依然として厳しく、私たち音楽家が日本に入国する際にも多くの支障があるため、今年も例年通りのル・ポンを実施することができませんでした。ただありがたいことに、今年ル・ポンに参加を予定していた、また過去に参加したことのある音楽家の多くが、忙しいスケジュールの合間を縫って、ベルリンのフィルハーモニーから生中継される特別なオンラインコンサートに参加してくれることになりました。音楽家の友人たちが、このようにこの音楽祭に愛情を注いでくれていることは、私にとって宝物のようなもので、とても感謝しています。

もちろん、私の目標は、音楽祭の故郷である赤穂、姫路に戻り、特別に準備された会場でコンサートを行い、聴衆、演奏家、ボランティア、その他全ての関係者とともに、美しい音楽、エキサイティングな時間、そして独特の心温まる雰囲気とを共有することです。私たち音楽家には、お互いの関係や音楽だけでなく、生のコンサートでしか得られない聴衆との交流や感動が必要なのです。これが私たちの生命線です。ここに向かって舵を切る必要があるのです。

今回は、デジタルでのお届けに限らせていただきますが、私たち演奏家は、美しい赤穂城跡や姫路城の豪華な庭園、印象的な書写山圓教寺などで、お客様を目の前にして演奏しているような気持ちで臨みます。また、素晴らしいホールのベルリン・フィルハーモニーも、このイベントに特別な雰囲気をもたらし、新たなインスピレーションが得られるのではないのでしょうか。

来年 2022 年には、赤穂、姫路で開催されるル・ポン国際音楽祭で再びお会いできることを楽しみにしています！

榎本 大進

ル・ポン国際音楽祭 赤穂・姫路 音楽監督

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 第1コンサートマスター

● プログラム

招待演奏家によるコンサート

(フィルハーモニー・ベルリン 大ホール ドイツ時間正午開演 日本時間 午後 8 時ライブ配信)

W. A. モーツァルト	ホルン五重奏曲 変ホ長調 KV 4 0 7	ドール (Hr)、ベンディックス=バルグ リー (Vn)、ルベ (Va)、グロス (Va)、ボ ルケス (Vc)
ミヒャエル・ハイドン	ディヴェルティメント ハ 長調 MH 2 7	五明 (Vn)、シュテッケル (Vc)、マクド ナルド (Cb)
ハインリヒ・ホフマン	フルートと弦のためのセ レナード Op. 6 5	パユ (Fl)、五明 (Vn)、樫本 (Vn)、グロ ス (Va)、ボルケス (Vc)、マクドナルド (Cb)
— 休憩 —		
カミーユ・サン=サーン ス	タランテラ Op. 6	ル・サーージュ (Pf)、パユ (Fl)、フッ クス (Cl)
ニーノ・ロータ	フルート、ヴァイオリン、 ピアノのための三重奏曲	パユ (Fl)、樫本 (Vn)、ル・サーージュ (Pf)
エルネー・ドホナーニ	六重奏曲 ハ長調 Op. 3 7	ル・サーージュ (Pf)、ドール (Hr)、フッ クス (Cl)、ベンディックス=バルグ リー (Vn)、ルベ (Va)、シュテッケル (Vc)

※やむを得ない事情により、出演者・曲目等が変更になる場合があります。

● 広 報

- (1) 記者発表及び資料提供
事業計画決定後、報道機関へ記者発表、資料提供
- (2) 広報あこう、回覧広報あこう
- (3) チラシの作成
- (4) HP・SNSの活用

～ アーティスト紹介 ～

<p>樫本 大進 <ヴァイオリン></p>	<p>1979年ロンドン生まれ。1996年のフリッツ・クライスラー、ロン＝ティボーの両国際音楽コンクールでの1位など、5つの権威ある国際コンクールにて優勝。</p> <p>3歳よりヴァイオリンを恵藤久美子に学び、7歳でジュリアード音楽院プレカレッジに入学、田中直子に師事。11歳のとき、名教授ザハール・ブロンに招かれリューベックに留学し、20歳よりフライブルグ音楽院でライナー・クスマウルに師事。博士課程においてグスタフ・シェック賞を受賞し修了。</p> <p>これまで、マゼール、小澤征爾、ヤンソンスなどの著名指揮者のもと、数々のオーケストラと共演を重ねるほか、室内楽においても、クレメール、堤剛、パユなど数々のソリストと共演している。</p> <p>2010年、日本人として史上2人目のベルリン・フィルハーモニー管弦楽団第1コンサートマスターに正式就任。オーケストラの顔として活動しているほか、本拠地ベルリンでの定期演奏会やヨーロッパ、アジア・ツアーでの演奏会などでソリストとしても共演している。</p> <p>主なCDに、2014年にワーナー・クラシックスから世界リリースもされた、コンスタンチン・リフシツとの『ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ全集』など。</p> <p>1995年アリオン音楽賞、1997年出光音楽賞、モービル音楽賞、1998年新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞、平成9年度芸術選奨文部大臣新人賞、2011年兵庫県文化賞、チェンジメーカー2011クリエイター部門、2017年姫路市芸術文化大賞、2021年赤穂市特別功労者顕彰を受賞。ドイツに於いてはシュタインゲンベルガー賞、ダヴィドフ賞を受賞。2019年12月より、HiFiオーディオ製品ブランド「VELVET SOUND」(旭化成エレクトロニクス)公式アンバサダー。</p> <p>TBS「情熱大陸」、NHK「プロフェッショナル～仕事の流儀」など、多くのメディアに取り上げられ、クラシック音楽の最高峰で活躍するヴァイオリニストとして常に注目を浴びている。</p> <p>使用楽器は1674年製アンドレア・グワルネリ。</p>
<p>五明 カレン <ヴァイオリン> ル・ポン参加：2019年</p>	<p>東京生まれ。モンリオールとニューヨークで音楽のキャリアを積み、近年はベルリンに活動拠点を移す。才能豊かな音楽家である彼女を、シカゴ・トリビュン紙は卓越した技能、才能そしてバイタリティと強さを持つ一流のアーティストとして賞賛している。ヨーロッパ、北米、オーストラリア等において、数々のオーケストラと演奏しているほか、サー・アンドルー・デイヴィス、エサ＝ペッカサロネンといった指揮者と共演。</p> <p>使用楽器は個人のスポンサーから寄与された1703年製ストラディバリウス“オーロラ”。</p> <p>NHKワールドにより世界中で放送された、アントニオ・ストラディバリウスについてのドキュメンタリー番組“至高のヴァイオリン ストラディバリウスの謎”に、ヴァイオリニスト、司会者、そしてナレーターとして出演した。</p>

<p>ノア・ベンディックス ＝バルグリー ＜ヴァイオリン＞ ル・ポン参加：2017年</p>	<p>米ノースカロライナ州アッシュビル生まれ。4歳でヴァイオリンを始め、インディアナ大学ジェイコブス音楽院とミュンヘン音楽・演劇大学を卒業。2009年にブリュッセルで開催されたエリザベート王妃国際音楽コンクールファイナリスト。ソリスト、室内楽奏者として世界の舞台上で活躍する傍ら2008年から2011年までアスロス弦楽四重奏団の第一ヴァイオリン奏者、2011年から2015年までピッツバーグ交響楽団のコンサートマスターを務めた後2014年、ベルリン・フィルの第1コンサートマスターに就任。使用楽器は1732年クレモナ製のカルロ・ベルコンツィ。</p>
<p>ギャレス・ルベ ＜ヴィオラ＞ ル・ポン参加：2008、2009、2012 2014、2018、2019年</p>	<p>1976年南アフリカ・ヨハネスブルグ生まれ。4歳のときからピアノとヴァイオリンを学び、9歳でヨハネスブルグのオーケストラでヴァイオリン奏者としてデビュー。その後も国内や地域のコンクールで数々の賞を獲得。</p> <p>ドイツに留学後、リューベックでバルバラ・ウェストファールに師事し、ヴィオラで修士号を取得。ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ、アジアで、ソロ活動を行うほかマーラー室内管弦楽団やライブチヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の首席ヴィオラ奏者として、クラウディオ・アバド、リッカルド・シャイーやダニエル・ハーディング等の指揮のもとで演奏した。また、主に現代音楽の分野でヨーロッパにおいて著名なアンサンブル・ゲルバークランクのメンバーとして活躍し、BBCやヨーロッパの主要ラジオ局のためにレコーディングを行っている。</p>
<p>アミハイ・グロス ＜ヴィオラ＞ ル・ポン参加：2010、2012、2013、 2015、2017年</p>	<p>1979年イスラエル生まれ。エルサレム弦楽四重奏団の創設メンバー。2010年よりベルリン・フィルの首席ヴィオラ奏者として活躍。ダニエル・バレンボイム率いるウェスト＝イースタン・ディヴァン管やエルサレム響でも演奏する傍ら、ソリストとしても活躍。イエフィム・ブロンフマン、エマニュエル・パユ、内田光子、オレグ・マエイセンベルク、ジャニーヌ・ヤンセン等と共演。またヴェルビエ音楽祭、BBCプロムスなど、世界中のホールや音楽祭で活躍している。使用楽器は1570年製のガスパロ・ダ・サロ。持主より終身貸与されている。</p>
<p>クラウディオ・ボルケス ＜チェロ＞ ル・ポン参加：2007～2010、2012、 2014～2019年</p>	<p>ペルーとウルグアイ出身の両親を持ちドイツに生まれる。チェロをボリス・ペルガメンシコフに師事。「若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール」や「ロストロポーヴィチ・チェロ・コンクール」などで入賞を重ね、1995年「ジュネーブ国際音楽コンクール」優勝、2000年第1回「パブロ・カザルス国際コンクール」で第1位および最も優れた室内楽演奏に贈られる特別賞を受賞。その後、ソリストの傍ら、2011年から2016年までシュトゥットガルト音楽大学の教授として後進の指導にあたり、2016年には、2003年より客員教授を務めているベルリンのハンス・アイスラー音楽大学の教授に就任。</p> <p>これまで世界中の名門オーケストラと共演、また、世界各地の音楽祭にも招かれており、高い評価を得ている。2017年にはヴィネン</p>

	<p>デン音楽祭芸術監督に就任した。 使用楽器は、バーデン＝ヴュルテンブルグ州立銀行から贈られたチェロ「G. B. ロゲーリ」。</p>
<p>ユリアン・シュテッケル <チェロ> ル・ポン参加：2013年</p>	<p>世界的に称賛され、現代を代表するチェリストの一人である。2010年ミュンヘン国際音楽コンクールで第1位と同時に、聴衆賞、エームス・クラシック賞、ミュンヘン室内管弦楽団賞を受賞した。このほか、2005年ロストロポーヴィチ国際チェロ・コンクール第2位グランプリ、2006年エマニュエル・フオリアマン国際チェロ・コンクールでエルンスト・トッホの「チェロ協奏曲」で特別賞、2004年パブロ・カザルス国際チェロ・コンクール第2位を受賞した。</p> <p>アヴィ・ミュージックよりリリースした『20世紀チェロ協奏曲集』ではコルンゴルトとゴルトシュミットの「チェロ協奏曲」およびブロッホの「シェロモ」（ダニエル・ライスキーン指揮／ライン州立フィルハーモニー管弦楽団）を収録し、2012年エコー・クラシック賞を受賞した。</p> <p>ドイツ生まれ。ウルリッヒ・ヴォス、グスタフ・リヴィニウス、ボリス・ペルガメンシコフ、ハインリヒ・シフ、アンティエ・ヴァイトハースに師事。現在、ミュンヘン音楽大学の教授を務めている。</p> <p>使用楽器は、2005年製のウルス・W・メヒラー。</p>
<p>マシュー・マクドナルド <コントラバス> ル・ポン参加：2018年</p>	<p>キャンベラ出身。2000年から01年までベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のオーケストラ・アカデミーで研鑽を積むとすぐに頭角を現し、デンマーク放送交響楽団の副首席奏者として活躍。09年ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。現在、首席コントラバス奏者。同団に入団する前は、アンサンブル・モデルン（03年～06年）や、ベルリン放送交響楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団の首席コントラバス奏者を務めている。コーンウォールで開かれるインターナショナル・ミュージシャンズ・セミナーPrussia Coveでも定期的に招かれ、後進の指導にあたっている。</p>
<p>ヴェンツェル・フックス <クラリネット> ル・ポン参加：2014年</p>	<p>1963年オーストリア生まれ。ウィーン音楽大学で学び、オーストリア科学芸術省賞を受賞。ウィーン・フォルクスオーパーの首席クラリネット奏者、オーストリア放送(ORF)交響楽団の首席クラリネット奏者を歴任し、1993年にベルリン・フィルの首席クラリネット奏者に就任。ベルリン・フィルのオーケストラ・アカデミーで教えるほか、ハンス・アイスラー音楽大学ベルリンで教授、日本の東京芸術大学及びくらしき作陽大学の客員教授、上海音楽院の名誉教授を務め、世界中でマスタークラスを行っている。</p>

<p>エマニュエル・パユ <フルート> ル・ポン参加：2010、2016、 2019年</p>	<p>6歳でフルートを始め、パリ国立高等音楽院でミシェル・デボスト、アラン・マリオン、クリスチャン・ラルデ、ピエール＝イヴ・アルトールに師事、同音楽院卒業後はバーゼルのオーレル・ニコレの下で研鑽を積んだ。1989年の神戸国際コンクール第1位で日本のフルート・ファンの注目を一気に集め、92年には最難関のジュネーヴ国際コンクール第1位を獲得。</p> <p>1992年ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のオーディションに合格し、翌年には首席奏者に就任。2000年6月ベルリン・フィルを退団、同年9月から2001年6月までジュネーヴ音楽院フルート科の教授として後進の指導にあたる。</p> <p>2002年4月ベルリン・フィルに復帰、同オーケストラ首席奏者およびソロ・フルーティストとしての演奏活動を再開。</p> <p>来日も多く、リサイタルの他、N響、東響、読響を含むオーケストラとの共演、レ・ヴァン・フランセ(木管アンサンブル)での公演、またマスタークラスも行っている。2006年放送の大河ドラマの紀行音楽にも参加した。録音ではワーナー・クラシックスと専属契約を結び、20作を超えるCDをリリース、多くの賞を受賞している。</p> <p>フランス芸術文化勲章「シュヴァリエ」受章。英国王立音楽院名誉会員。</p>
<p>シュテファン・ドール <ホルン> ル・ポン参加：2018年</p>	<p>“ホルンの王”とニューヨーク・クロニクルに評価。完璧なテクニック、音程、アーティキュレーションにより、ホルン界のリーダー的存在。エッセンとケルンで学び、19歳でフランクフルト・オペラの前首席ホルン奏者となる。その後、パイロイト祝祭管弦楽団、ニース・フィルハーモニック管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団を経て、1993年ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者に就任した。</p> <p>ソリストとしては、ダニエル・バレンボイム、ベルナルト・ハイティンク、クリスティアン・ティーレマン、ダニエル・ハーディング、クラウディオ・アバドなどと共演。アバドからはルツェルン祝祭管弦楽団の首席ホルン奏者としても招かれた。モーツァルト、ハイドン、R.シュトラウスといった古典派、ロマン派のソロ・レパートリーに加え、リゲティ、ナッセン、キルシュナーなどの現代音楽にも意欲的に取り組んでおり、2008年ヘルベルト・ヴァイリ、2011年細川俊夫、2014年ヴォルフガング・リームが彼のために作曲し、世界初演を果たした。今後も数々の委嘱作品を演奏する予定。</p> <p>室内楽奏者としては、ベルリン・フィル団員との数多くのアンサンブルだけでなく、マウリツィオ・ポリーニ、ラルス・フォークト、コリヤ・ブラッハー、イアン・ボストリッジ等著名な演奏家とも共演。また、木管五重奏の最高峰、アンサンブル・ウィーン＝ベルリンのメンバーも務める。教育者として世界中のマスタークラスを受け持ち、ベルリン・フィル・カラヤン・アカデミーで後進の指導にもあたっている。</p>
<p>エリック・ル・サージュ <ピアノ> ル・ポン参加：2008、2011、 2015～2018年</p>	<p>南仏エクサン・プロヴァンス生まれ。パリ国立高等音楽院を17歳で卒業後、ロンドンでマリア・クルチオに師事。1985年ポルト国際および89年ロベルト・シューマン国際第1位などのコンクール受賞歴を持つ。</p>

ウイグモア・ホール、シャトレ座、アムステルダム・コンセルトヘボウ、フランクフルト・アルテ・オーパー、ケルン・フィルハーモニー、カーネギーホールを含む著名コンサートホールに出演するほか、フィラデルフィア管、トロント響、シュトゥットガルト放送響、ドレスデン・フィル、フランス放送フィル、トゥールーズ・キャピトル国立管、ロイヤル・スコティッシュ・ナショナル管、ロッテルダム・フィル、読響、都響を含む数々のオーケストラと共演。

優れた室内楽奏者としても知られ、1992年よりポール・メイエ(クラリネット)、エマニュエル・パユ(フルート)等と共にサロン・ド・プロヴァンス国際室内楽音楽祭を主宰。

プーランクの室内楽作品全集、シューマンのピアノ曲・室内楽作品全集(2010年ドイツ・レコード批評家賞受賞)、フォーレの室内楽作品全集を含む多数のCDをリリース。